

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32206

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12788

研究課題名(和文) ニカラグアにおける障害者の生活実態に関する調査研究

研究課題名(英文) Study about the daily living of person with disabilities in Nicaragua

研究代表者

田中 紗和子 (Tanaka, Sawako)

国際医療福祉大学・成田保健医療学部・助教

研究者番号：90732850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題に沿って、ニカラグアの障害者の生活実態を文献調査およびフィールド調査をもとに分析、整理した。障害者福祉関連機関訪問および、障害関連組織やイベントにて情報収集とインタビュー、参与観察を行った。また、障害児通所施設における活動事例を、障害児とその家族、施設スタッフ、地域住民の関係性に着目しながら分析し、事例に関わる人々の関係性の変容が地域へ展開するプロセスを明らかにした。障害分野における国際協力の可能性として、障害課題を福祉の対象として捉えるのではなく、社会的課題として捉えるという視点の転換の必要性が認められた。

研究成果の概要(英文)：I analyzed the daily living of the person with disabilities in Nicaragua based on documentaly searching and a field investigation. I did visit and participant observation on some organizations about the person with a disability support and events. Also I did case study in the institution for children with disabilities, especially fornced on the relationship of local inhabitants and people who has disabilities. This study clarified the process that the relationship of people who has disabilities and concerned with them presented to a local community in an example. The problem about the disabilities is not the welfare. This study clarified that It is necessary that the problem about the disabilities deals with a social problem as one of the international cooperation.

研究分野：作業療法、国際社会開発

キーワード：障害と開発 障害児支援 国際協力 発展途上国 ニカラグア 地域社会 社会開発 調査研究

1. 研究開始当初の背景

国際社会において障害の問題は長らく、身体機能の不全など障害を個人の課題として捉えられてきたが、近年、障害の課題を障害者個人に押し付けるのではなく、障害は障害者と社会の接点で生じる課題であると捉える「障害の社会モデル」に目が向けられるようになってきている。また、2008年には、国連障害者の権利条約が発効され、途上国における貧困の問題を考える際に障害者の問題を考えることの重要性が認識されている。

一方で、障害者の暮らす社会にまで分析の視覚を広げた研究は未だ数少なく、具体的な施策を考えるための土台となる障害者の生活実態については、多くの国々できちんとした調査が行われていないのが現状である。[1]

研究代表者が青年海外協力隊として活動した中米ニカラグアでは、2011年に初めて障害者の権利に関する法律が制定され、都市の施設・設備の充実化が図られた。一方で、活動していた障害児支援施設では、当該施設がその地域で障害児のリハビリテーションを担う唯一の機関であったにも関わらず通所児は僅かで、施設はほとんど機能していない状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中米ニカラグアにおけるフィールド調査を通して、(1)発展途上国における障害児者の生活実態を明らかにすること。(2)障害児者支援分野における国際協力の具体的かつ効果的な方法を検討することである。

3. 研究の方法

本研究では、ニカラグアの障害者の生活実態を文献調査およびフィールド調査に基づく事例分析によって明らかにした。具体的には、研究代表者が作業療法士(セラピスト)として携わった障害児支援施設におけるビーズ手芸活動実践(2011年6月~2013年6月までの2年間)の事例分析を行った。事例の記述は、当時の報告書やメモ書き、ブログや帰国後の活動報告などを資料とした。

文献調査では、分析枠組みである「障害モデル」およびニカラグアの障害者に関する文献について、先行研究、報告などを調べた。支援については、研究代表者の専門である作業療法の概念の変遷や作業療法における作業の位置づけについて、その背景や理論をまとめた。

フィールド調査は、2015年12月19日~2016年1月3日、2016年9月27日~12月1日、2018年3月13日~3月25日の合計3回実施した。事例に関わった人々(施設利用者、同僚、関連団体の職員など)に対する非構造的インタビューおよび施設活動や障害関連イベントの参与観察、障害者支援関連団体での聞き取り調査を行った。事例に関わった人々への非インタビューは、障害児者の

生活実態および、ビーズ手芸活動実践の中で生じた人間関係の変容を明らかにすることを目的として行った。本研究は、日本福祉大学国際社会開発研究科の倫理審査委員会において、承認を得た上で実施した。

4. 研究成果

(1)ニカラグアにおける障害の定義、統計、障害者政策の変遷と現状、地域生活事例を収集し、ニカラグアの障害者の生活実態についての全体像を整理した。

(2)インタビュー調査を通じて、障害児者を有する家庭の生活実態と、障害診断の際の医師の態度への不満、予期せぬ出来事と遭遇したという意識、障害に関する知識や情報の欠如、自分の生涯をかけて子育てを行うという強い意識、差別や偏見の対象となった経験などの障害児の母親に共通する経験や心情を明らかにし、障害児者をもつ家族に対する支援の重要性を確認した。

(3)障害児支援施設における手芸を通じた実践事例における活動に関わる人々の関係性の変容が地域へ展開するプロセスを明らかにした。

経時的な実践過程は、「信頼関係構築期」「ビーズ手芸定着と参加者の交流拡大期」「施設活動拡大と参加者の意識変容期」「地域社会との関わりの拡大期」の4期に分類し、人々の関係の段階的变化、多様な場の創出、地域社会とのつながりの拡大という3つの視点から、ビーズ手芸活動のプロセスと、そこで生じた人々の関係性と社会との関わりを分析した。

人々の関係性の段階的变化では、「ビーズ手芸」を介し、職員とセラピストの相互の信頼関係が築かれた。そこから、利用者が増加し、利用者や職員、利用者同士における相互関係が深まり、近隣住民や家族との繋がりが拡大した。利用者同士の相互の関係性の深化が、施設スケジュールの安定や、家庭訪問の開始へと繋がり、作品販売の活発化が、職員や利用者の主体性を育んだ。また、地域住民と施設関係者が関わる機会の増加が、外部組織と連携した活動へと発展した。

(4)活動は同じでも、場や状況によって人々の関係性は変化することを示した。

ビーズ手芸活動を通じて生み出された場の機能として、共感し合い、癒される場、自尊心が得られる場、学びの場、楽しい、気晴らしになる場、リハビリ(機能訓練)の場、社会とつながる場の6つを抽出した。その中で、利用者同士の関わりは、それぞれの立場や役割、関係性によって、自然に調整されていることが明らかになった。セラピストと利用者は、機能訓練場面における会話の中で、セラピストは、専門的な視点から、母親が子どもの障害を客観的に把握し、

受容できるよう働きかけ、勇気づける役割を担っていた。同時に、日常生活の様子など、障害のある人の社会的背景について利用者から教えてもらうという相互の関係性が認められた。職員は、利用者の声に耳を傾け、励ましたり、明るく元気づけたりする存在であり、施設が楽しい場として認識されるのに重要な役割を果たしていた。

施設内に比べ施設外では、より自然でプライベートな会話が繰り広げられており、そうしたプライベートな経験の共有の積み重ねが、各主体間の相互理解と親密な信頼関係の構築に繋がっていることが明らかになった。

(5) 障害児者支援分野における国際協力の可能性として、障害関連課題を福祉の対象として捉えるのではなく、社会的な課題として捉えるという視点の転換の必要性および、人々の関係性の変容プロセスに着目した支援を実践することの重要性が示唆された。今後は、障害者の地域での社会生活における人々の関係性に着目すべく、障害と社会関係資本の関連を明らかにすることを目的に調査研究を展開する。

<引用文献>

[1] 森壮也編(2008)『障害と開発 途上国の障害当事者と社会』アジア経済研究所

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

田中紗和子(2018)「作業療法の脱構築 - ニカラグアにおけるビーズ手芸を通じた障害児支援の事例から」『福祉社会開発研究』査読有、Vol.13, pp.71-79

[学会発表](計3件)

田中紗和子、河野眞、石井清志「地域福祉における作業療法士の役割 ニカラグアでのビーズ手芸活動を通じた作業療法実践」2016年9月、第50回日本作業療法学会、北海道

Sawako TANAKA “Community support through creating a space as an opportunity of participation -case of beads handicraft activity in an institution for children with disabilities, Nicaragua” 2015年9月、第3回アジア太平洋 CBR 会議、東京

田中紗和子「JOCV ニカラグア作業療法隊員が行った活動の継続性について 活動終了後1年後の任地への訪問を通して」2015年6月、第49回日本作業療法学会、兵庫

[図書](計2件)

田中紗和子(2017)「地域共生に向かう作業療法：ニカラグアと福島の実験」日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター編『開

発福祉：制度を越えて地域を創る』2017年3月、ミネルヴァ書房、分担執筆、pp.195-208
田中紗和子(2016)「国際リハビリプロジェクトはじめて立案ワークブック 参考課題事例ニカラグア」河野眞編『国際リハビリテーション学』2016年4月、羊土社、分担執筆、pp.262-269

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

国際リハビリテーション入門セミナー in 九州、2017年7月30日、独立行政法人国立病院機構九州医療センター

開発協力入門「私の修論経験」、日本福祉大学国際社会開発研究科修士課程、日本福祉大学名古屋キャンパス、2017年5月20日

国際リハビリテーション入門セミナー in 東京、2017年2月25日、東京

JOCV リハビリテーションネットワークセミナー、2017年2月4日、東京

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 紗和子 (TANAKA, Sawako)
国際医療福祉大学・成田保健医療学部・助教
研究者番号：90732850

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

山田 満 (YAMADA, Mitsuru)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：50279303

河野 眞 (KONO, Makoto)
国際医療福祉大学・保健医療学部・教授
研究者番号：70364651

(4)研究協力者

Walter Antonio Hernandez Centeno
フィガルバ市役所・職員

Delvis Oporta
ロス・ピピートス ラリベルタッド・理
学療法士

Nesbel Flores
ロス・ピピートス フィガルバ・職員

Axa Bonilla
ロス・ピピートス フィガルバ・家族会代
表